

# ナシ“萎縮症”と“フタモンマダラメイガ”の 対策のポイント

佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当

井手 洋 一



ナシ萎縮症の侵入口となる大きな切り口

最近、写真(左)に示すように主枝単位で枝枯れを生じる「萎縮症」という病気が問題となつています。「見ウイルス」病のように見えますが、実は糸状菌(かび)による病気です。また、フタモンマダラメイガという害虫が原因で樹が衰弱している事例も見受けられます。これらの対策については、これまで研修会の際に何度かご紹介してきたところですが、改めて今回、発生生態や対策について述べてみたいと思います。



ナシ萎縮症の地上部の症状

## 萎縮症

### 症状

主枝単位で新葉が萎縮し、徐々に枝は枯れていきます。これまではヒポキシロンという菌が関与する「ヒポキシロン幹腐病」ということで皆さんに紹介してきましたが、最近の農水省果樹研究所の研究で、ヒポキシロン菌が原因の場合は少なく、フェリナスという菌が関与していることがわかりました。

### 感染部位

フェリナス菌、ヒポキシロン菌は、ともに大きな切り口や日焼けの跡等から感染します。間伐等で大きな切り口ができる事はしやうがないことかと思いますが、枝の日焼けについては温度管理、枝の配置等に十分に気を払ってください。

場合によっては、ホワイトンパウダーの塗布も必要です。SSや運搬車等の大型機械がぶつかった跡などからも感染しますので要注意です。

### 切り口保護のポイント

生産者の方々はせん定の際、切り口保護のためにトップジンMペーストやバッチレートを使われていることかと思いますが、中にはせん定後すぐに塗布せずに、何日分もまとめて塗布しているケースが見受けられます。

切り口が乾燥してからペースト剤を塗布してもカルスが十分に形成されませんので、せめてその日のせん定作業の終了後にはペースト剤を塗布するように心がけてください。

なお、切り口が大きいとカルスの

形成に時間がかかるため、ペーस्ट剤の効果が十分に発揮されません。

このため、切り口が大きい場合には、塗布剤が乾いた後にアルミ泊等で切り口全体を覆うことをお奨めします（ミカンではよく行われます）。

また、大きな切り口を作った場合には、「萎縮症」が発病するだろうということを前提として、そばに新しい苗を補植したりする等の対策を講じておいた方がよい場合もあります。状況に応じて判断してください。

### 収穫後の殺菌剤

「萎縮症」は、露地栽培やトンネル栽培よりもハウス栽培で多く発生しています。

ハウス栽培は七月中旬に収穫を終了するわけですが、収穫後、殺菌剤をほとんど散布しないという園も少なくないようです。

このような園では、「萎縮症」のみでなく、胴枯病や枝枯病、芽枯れ症状も多く発生しています。

黒星病の秋期防除も兼ね、少なくとも収穫後、一月上旬まで一ヶ月間隔でフランフロアブルやキノンドーフロアブル等の殺菌剤を散布してください。

### フタモンマダラメイガ

#### 原因の害虫

最近、枝や幹の部分を加害し樹勢を低下させる害虫が問題になってい

ます。フタモンマダラメイガという蛾の幼虫がその犯人です。もともとカキの害虫として知られていたのですが、最近、ナシでの被害が目立つようになりました。

最近、廃園が増えて発生密度が高くなったのも、その原因のひとつといえます。

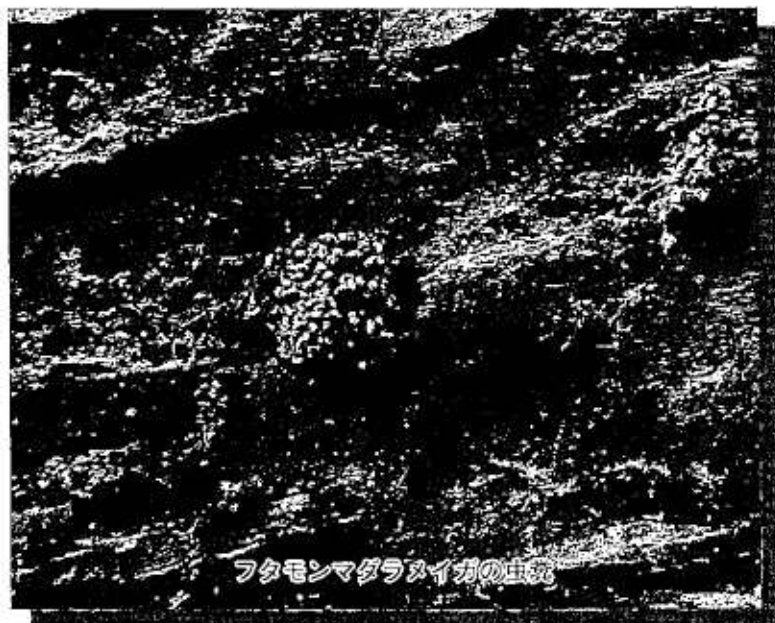
フタモンマダラメイガが食害した跡には、ハサミムシやウジムシが寄生するため、当初はハサミムシやウジムシが犯人ではという生産者の方



枝幹を害するフタモンマダラメイガの幼虫



フタモンマダラメイガの被害



フタモンマダラメイガの虫

からの声があがっていました。

しかし、ハサミムシやウジムシは食害されボロボロになった部分に住み着いているだけで、真犯人ではありません。

### 収穫後の対策

フタモンマダラメイガの幼虫は、やや茶色っぽい体色をしており、表皮から形成層の間を食い荒らしていきます。

樹の内部に潜ってしまった幼虫に対して殺虫剤を散布したり、塗布剤を塗ったりといろいろ試してみましたが、残念ながらまったく効果はありませんでした。

このため、予防散布で幼虫が樹の中に侵入するのを抑えるしかありません。

また、フタモンマダラメイガの被害は露地栽培よりもハウス栽培で多く生じています。

フタモンマダラメイガは、九月下旬頃まで産卵を繰り返します。露地栽培では、カメムシ対策やナシヒメシンクイ対策のために九月まで殺虫剤が散布されますが、ハウスの場合、七月中旬に収穫が終了した後には、殺虫剤が散布される事がほとんどありません。この事がハウス栽培でフタモンマダラメイガの被害を助長している原因のひとつとなっています。

ます。

フタモンマダラメイガの被害がみられる園では、収穫後の殺菌剤を散布する際に、有機リン剤や合成ピレスロイド剤をあわせて使用してください。

### 粗皮はぎを行う際の注意

現地の様子を観察すると、形成層まで丁寧な粗皮はぎを行っている園で、この害虫の被害が大きいようです。

形成層付近まで削り取ると、樹内部の柔らかい組織が剥き出しになり、害虫が樹の内部に容易に侵入できるためです。

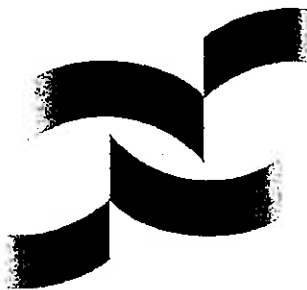
粗皮はぎを行っていない園、または軽く粗皮はぎを行っている園では、フタモンマダラメイガが寄生していたとしても樹幹部を広範囲にわたって食い荒らすことはなく、ごく一部の範囲の加害にとどまっており、問題になっていません。

粗皮はぎの作業は、輪紋病やナシヒメシンクイ対策として有効な手段ですが、外部の堅い皮を軽く削り取る程度にとどめておいてください。

萎縮症、フタモンマダラメイガとともに、生産性を低下させる恐ろしい病害虫です。今回述べたポイントを参考にし、対策を実践してください。

## 「創造への挑戦」

紙の新しい可能性を拓く日本紙通商



NP TRADING

日本製紙グループ

日本紙通商株式会社

本社

東京都千代田区内神田2-2-1 (鎌倉河岸ビル)

〒101-8536 TEL. 03-3252-1654(代)

URL : <http://www.np-t.co.jp/>

支社/札幌・静岡・名古屋・大阪・岩国・九州

営業所/徳山・四国・広島

海外/香港・クアラルンプール・シンガポール  
ジャカルタ・バンコク